



Our club is registered with Gakuyukai

Journal of Summer Concert Practice

club homepage: www.tohoku-wind.org/



Sleep, eating vegetables, and exercise are important for good health

Tomoki Sekimori ^a, Bryan Chew Ming Guang ^{b*}

^a Tuba part, Tohoku University Wind Orchestra, Sendai, Japan.

^b Percussion part, Tohoku University Wind Orchestra, Sendai, Japan.

ARTICLE INFO

Article history:

Practiced 24 June 2023

Submitted 26 June 2023

Keywords:

Summer Concert 2023

My Favorite Things

Beauty and the Beast

Another Day of Sun

ABSTRACT

健康のためには睡眠と野菜の摂取、そして運動が重要である。東北大学学友会吹奏楽部サマーコンサート2023の第3部指揮者であるブライアン周銘廣氏はこのことを常々述べている。しかし、筆者は日々の運動を怠っていたため、本報告を執筆することとなった。

2023年6月24日に行われた合奏では、第3部で演奏する曲目の内、後半の3曲の練習および通しを行った。合奏の回を重ねるにつれて次第に演奏としてまとまってきたものの、まだ課題も多く残されていることを再認識した。

演奏面の課題はもちろん、合奏へ臨む姿勢という点でもまだ課題がある。ここで一度自分自身の演奏・姿勢を見直して、本番までの残り1ヶ月弱でできることをやり尽くすことが重要である。

1. Introduction

サマーコンサートは東北大学学友会吹奏楽部の2大演奏会の一角を占める重要な演奏会である。例年、3部構成で行われている。第1部はオープニングステージとして、華々しいオープニング曲と、吹奏楽コンクールの課題曲および自由曲が演奏される。第2部は大曲ステージであり、クラシック・映像音楽などの名曲が披露される。第3部はポップスステージとして位置づけられ、幅広い年代の聴衆に親しまれるような曲目が演奏される。

本報告で記述する合奏練習には第3部に出演する指揮者・奏者が参加した。今回は後半で演奏する3曲に着目し、指揮者と奏者との間で楽曲に対する認識を共有するとともに、各奏者が現状を把握して今後改善すべき点について再確認することを目的とした。本報告においては、指揮者から指示があった内容を基とし、筆者の私見も交えて練習内容について記述する。

2. Methods

2.1. Practice menu

まず基礎合奏としてFおよびB^bのチューニング、バランス練習、スケール練習、カデンツ、リズム練習を行った。その後、「私のお気に入り」「美女と野獣」「ラ・ラ・ランド」の練習および通しを行った。

3. Results

3.1. Basic practice

3.1.1. Tuning

第3部の合奏の冒頭において毎回行われる、Fでのチューニングを今回も実施した。全体で同時に音を鳴らすだけでなく、パート毎でも確認したところ、少人数であってもピッチが合っていないことが判明した。また、チューニングで音を伸ばしている間に音が揺れてしまう現象が観察された。

* Conductor at: Summer Concert 2023 3rd Stage, Tohoku University Wind Orchestra, Sendai, Japan.

3.1.2. Balance

バランス練習では、ABCDの順にグループごと音を重ねていった。順番に音を重ねるため、前のグループがどのように音を出しているかを踏まえた上で、ダイナミクスやニュアンスを合わせて音を出すことが重要であると指摘があった。

3.1.3. Scale

長調の12種類のスケールを全て演奏するこの練習は、回を重ねるごとに次第にスムーズにできる奏者が増えてきた。この練習は慣れることが重要であるという指摘は以前からされており、今回も再度周知された。

3.1.4. Cadence

根音を聞いて第5音、第3音の音程を相対的にイメージする力を養うため、声を出して歌ってみるという練習を行った。また、美しいハーモニーを作るため、それぞれの音のバランスに注意するよう指摘があった。

3.1.5. Rhythm

リズム練習には全音符から16分音符まで様々な音価の音符が出てくるが、今回はその中でも特に4分音符のニュアンスを揃えることを意識して練習を行った。

3.2. Songs Practice

3.2.1. My Favorite Things

冒頭のClarinetの音色について、次回火曜日の合奏までに揃えるよう指示があった。

[B]のメロディは音程に注意しなければならない。

[D]のTromboneは少し音量を抑えるべきである。

[H]の前に *decresc.* があることから、[H]のはじめはもう少し控えめに演奏するべきである。

[K]の伴奏は控えめにし、Fluteを目立たせる意識を持つ必要がある。

[L]のClarinet群は、順番に出てくる部分をスムーズに接続するべきである。

[P]のダイナミクスは *mf* であるため、ずっと *f* のままにならないように音量を落とさなければならない。

全体を通して、*ff* が出てきた際に油断して制御できないレベルの音を出さないよう注意すべきと指摘があった。

3.2.2. Beauty and the Beast

今回の合奏では[H]以降について練習を行った。

[H]から「愛の芽生え」ではベースを抑えめにするべきである。また、表拍に音を持っている人はビート感を出す意味で重要であると指摘があった。

[J]からの「美女と野獣」は、ダンスの曲であるから、ゆったりとしてロマンチックに演奏するよう指示があった。またここでも伴奏の音量が大きくなりすぎないように注意しなければならない。

[K]のメロディは音程とリズムに注意する必要がある。

[L]の直前に *dim.* があるため、忘れずにダイナミクスの変化をつけなければならない。また、Soloを際立たせるため、伴奏の人数を減らすよう指示があった。

[O]の3小節目の6連符は、表拍・裏拍にはめるようにして練習するよう指示があった。

最後の速度変化に関しては、Moderatoの3小節前から *poco a poco accel.* をかけ、Moderatoで一旦テンポを維持、最後の4小節で再び *accel.* をかけるという流れで行うと指示があった。

3.2.3. Another Day of Sun (from LA LA LAND Suite)

まずテンポについて検討を行った。原曲はテンポ126であり、東京佼成ウインドオーケストラによる参考演奏ではテンポ120で演奏されている。検討の結果、原曲に合わせてテンポ126を採用すると決定した。

Percussionのバランスについて、前半はDrumsを控えめにし、[F]からはPercussionが盛り上げていくよう指示があった。

4. Discussion

合奏を重ねるごとに着実に改善していている部分もあり、良い流れで来ていると感じている。しかし、未だ残されている課題もある。

一つはピッチがあまりにもあっていないということである。フレーズをイメージしやすいメロディーラインですら、ひどく音痴に聴こえてしまっていることが少なからずある。自分が演奏しているフレーズを客観的に聴いたときに果たして聴き心地の良いものになっているだろうか。演奏している自分自身で気がつけるのが理想だが、そうもいかない場合もある。そういう場合には、自分の

演奏を録音して聴いてみたり、パート練習などお互いに聴きあったりすると客観的に確認できる。ピッチについて、いま一度個人練習やパート練習で確認してみしてほしい。

もう一つは演奏面ではなく、合奏に臨む姿勢についてである。特に気になるのは、指揮者が話そうとしている時や話している最中に、不用意に楽器の音を出していることが多すぎるとのことだ。そのせいで合奏の進みが悪くなったり、指揮者の指示がよく聞こえなかったりする場面をこれまで何度も見てきたように思う。確かに、上手く演奏できないフレーズがあればその場ですぐ練習したくなる気持ちは分かる。しかし、それは個人練習やパート練習でやるべきことであって、合奏の場でやるべきことではないのではないか。それに、合奏の隙間時間に少し練習した程度では大抵できるようにはならない。

(それでできるようなことであれば、尚更合奏前に練習しておくべきである。) また、円滑な合奏進行を妨げることは指揮者に対しても他の奏者に対しても失礼である。合奏に臨む前に、自分の演奏の課題を整理し、練習しておくことは奏者の義務ではないだろうか。合奏の場では、各自の練習の成果を皆で共有し、足りない部分を再確認して次の合奏までにまた練習する、これが基本だと思う。ここで改めて合奏に臨む姿勢を見直してほしい。

最後は苦言を呈してしまったが、本番で観客・奏者・指揮者の誰もが楽しめる演奏にするためには、まだまだできることが多いと思う。ここに来て、いくつかのパートで各学年を代表するようなスタープレイヤーたちが助っ人として加わってくれるようにもなり、素晴らしい演奏に仕上げるための土壌は固まりつつある。あと本番までの1ヶ月弱、悔いのないようにやりつくそうではないか。